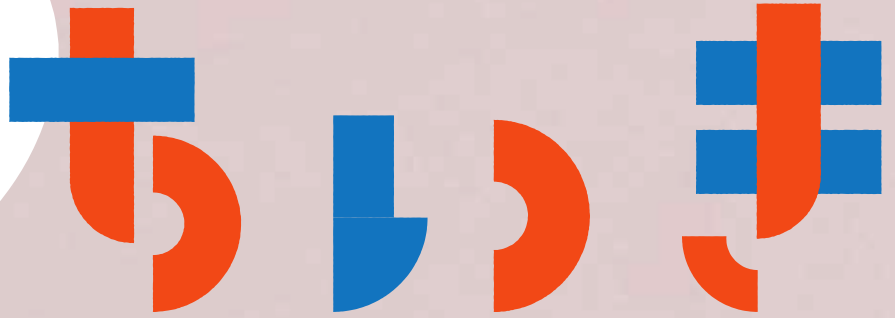


WE
LOVE



January 2023
地域医療支援学レター

vol.
42



CONTENTS

● 活動報告

● セミナー報告

リレートーク第42回

● ひとりひとりの住民に寄り添い、
住民全体を支える「つながり」づくりをめざして

島根県浜田保健所
所長 村下 伯 先生

活動報告

令和4年9月21日(水)18:00~19:45

令和4年度ワークライフバランス セミナー【職員FD】(ハイブリッド開催)

【テーマ】医療従事者の仕事のやり甲斐と幸福感 ~Well-being~
【場所】みらい棟4階ギャラクシー
【講師】石川県立大学 教養教育センター 教授 澤田 忠幸 先生
【参加者】30名

先生は「ウェルビーイング」を、「個人の精神的健康のポジティブな側面に着目した概念」と説明され、「主観的幸福感」と「心理的ウェルビーイング」の2側面があると話された。心理的ウェルビーイングは「生きがいを感じられること、夢に向かって充実していること」といったポジティブな心理状態を意味する。その尺度として、6次元の定義(Ryff)を紹介された。ウェルビーイングの研究において、近年特に注目されているのが「信頼できる他者関係が築けているか」という点であり、コロナ禍におけるメンタルヘルスと関連していると教示頂いた。

講演を通し、自己のキャリアを振り返ると、WLB・キャリアデザイン・ウェルビーイングはつながっていることを実感した。まずは、心理的安全性の保証等講演からの学びを職場にフィードバックすることが重要であると感じた。



令和4年10月3日(月)17:30~19:00

令和4年度 第1回えんネット交流会

【場所】みらい棟2階共通カンファレンス1
【参加者】女性医師5名、学生5名

えんネット交流会は当初7月を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、10月に延期とした。

今回は主に、『医師の働き方』について話が盛り上がった。仕事と子育ての両立については、これまで女性医師や女子学生の関心が高かった。しかし、男性の育児休業法の改正等を通じ、男子学生の意識も変化しつつあるようだ。男性の育児休業について、学生から「キャリアの継続ができるか心配である」という声があがった。これに対し医師からは、「長い人生で考えると、1年くらいキャリアが遅れても特に問題とはならない。その時は焦りを感じるかもしれないが、その時にしかできない家族と過ごす時間も貴重である」と話された。

仕事と家庭を両立している医師に直接話を聞くことができ、学生にとっても貴重な時間となったように考える。



令和4年11月25日(金)18:30~20:00

2022年度 地域枠全学年会 (ハイブリッド開催)

【場所】みらい棟4階ギャラクシー
【参加者】対面19名、オンライン11名

6年生が主催する全学年会が3年振りにハイブリッド開催された。今回は、広く「地域枠」について知ってもらいたいという主催者側の主旨から、枠以外の学生参加も呼び掛けられた。

2部構成で、1部はしまね地域医療支援センターより「しまね屋根瓦塾」等が紹介され、続いて主催者から「地域枠制度・奨学金」等について説明が行われた。2部は対面とオンライン参加者に分かれ、自己紹介後自由に歓談のスタイルがとられた。会場では、次々と3~4人の輪ができ自然と会話弾んだ。

主催者の最後の挨拶では、6年間の学びの中に自分の核となるものをしっかり築いた、力強いメッセージが後輩たちに贈られた。主催者が「つなぐ」全学年会によって、新たな「つながり」が後輩たちに生まれ、来年へとバトンが渡された。



令和4年9月30日~令和5年1月27日

地域医療学が始まりました

9月下旬より医学科1年生の「地域医療学」の授業が全面対面で始まった。学生達の声が始業着席まで学舎に響き、同期同士繋がりが持てていることに、何かしら嬉しさすら感じた。

地域医療学は、6年間を通じた地域医療教育プログラムの最初の授業科目である。島根県の地域医療の実態を理解することに加え、医療を多元的な視点から理解をすることを目指している。臨床医のみならず、公衆衛生、歴史学、国際協力、患者会、地域医療を守り育てる住民活動を行う方等、学内外の講師と連携し実施している。多様なバックグラウンドを持つ個性豊かな講師陣の講義は、地域医療への指向性を高める第一歩になることが期待される。

また、夏季休暇中に地域医療体験実習Iに参加した学生の学びが、この講義を通じて統合されることや、新たな実習に導かれることも期待したい。



令和4年11月19日(土)9:00~10:00

「プロジェクトS」名称改め 「ベースアップ」(ハイブリッド開催)

【場所】みらい棟1階みらいラウンジ
【参加者】14名(対面6、オンライン8名)

社会学系専門医の魅力がわかるケーススタディ「プロジェクトS」がバージョンアップされ、「ベースアップ」として開催された。

目的は「若手保健専門職を中心とした自主的な勉強会を開催し、保健活動推進のために必要な資質の向上を目指すとともに、職員同士の交流を通して他職種に対する理解を深める。また、公衆衛生分野に関心のある学生・研修医に参加を呼びかけることにより、人材確保にもつなげる。」である。

初回は島根県医療政策課 医療専門員の藤井俊吾先生に「しまねの在宅医療を推進するために」のテーマでお話を頂き、終了後参加者同士で意見交換をしながら学びを深めた。

今後、アドバイザー等の「シニア組」も加わり毎月開催が予定されている。学生・研修医の参加がさらに増えるよう、引き続き呼び掛けたい。



令和4年12月3日(土)12:30~17:00

第4回しまね総合診療の集い

【場所】ツインリーブホテル出雲 2階ファンクションルーム
【参加者】対面37名 Web11名 計48名

オープニング講演では、島根県立中央病院の小田川先生が「専門医制度」についてお話しされ、初期研修医や医学生は制度のイメージを掴むことができたのではないかと考える。

第1部は医学生3名が、島根県内の実習で感じたことや経験した症例を通じて、学生の視点から総合診療の必要性についてプレゼンテーションを行った。

第2部は専攻医教育企画で、2つの症例についてグループワークが行われた。最初に関節リウマチと肺がん患者の症例が提示され、関節リウマチの間診・診察・診断の方法や、肺がん患者の呼吸困難緩和の方法、在宅でのPCAポンプの必要性についてディスカッションが行われた。その後、島根県立中央病院の増野先生と今田先生から、症候学や詳細な治療方法、出雲PCAシステムの実績について講義頂き、初期研修医や医学生も実践的な学びに満足な様子が窺えた。



セミナー報告

SEMINAR REPORT



地域医療Webinar



2022年度版 地域の小規模多機能病院について

【実施日】令和4年10月7日(金)18:00~19:00

【講師】気仙沼市立本吉病院 院長

齊藤 稔哲 先生

【参加者】25名

概要

大きな病院の役割と臓器別専門医の関わり、小さな医療機関の役割と総合診療医の関わりを対比させる形で、その役割の違いを明快に説明頂いた。小さな医療機関は「生活が脅かされないように見えない危機を回避し、住民の生活に伴走する」総合診療医は「自分がある場所に求められている医療の形を見極め、その形を提供できるように知識と技術を習得し、その場所に関わる連携が深まるように調整する」と教示頂いた。

先生は「患者さんの困りごとを診るのではなく、困りごとを持つ患者さんを診る」また「地域で困っている方を見過さない」そして、「総合診療医は1人の人を身体と精神に分けず、身体を臓器別に分けず、一人の人として診療する」と話された。

先生のプロフェッショナルとして実践から本質を射抜くメッセージは、いつもながら奥が深く厚みがあり心に刺さった。



Career Webinar



消化器内視鏡医のしごと

【実施日】令和4年10月24日(月)12:15~12:45

【講師】島根大学医学部附属病院光学診療部 部長/准教授

柴垣 広太郎 先生

【参加者】12名

概要

内視鏡的粘膜切除術や内視鏡的粘膜炎層剝離術等、治療の実態を動画で見せて頂いた。また、消化器疾患の診断や治療における内視鏡の需要は拡大し、診断・治療技術の向上は治療成績を大きく改善していると教示頂いた。

先生は優れた知識や卓越したスキルを持つためには、基本的な手技が確立し、多くの症例が経験できるハイボリュームセンターでの自己研鑽が必要であると話された。先生も医師5年目から県外での研修を教授に交差し、淀川キリスト教病院や佐久総合病院で多くの症例を経験された。「そこで得た知見や技量はそれまでのものを劇的に向上させるものであった」と医師としての成長を振り返られた。高度なスキルを獲得する過程には、経験の長さだけでなく、良質な経験を積むことが大事であることを示唆され、質の高い経験を能動的に求めていくことの重要性を教示頂いた。



病院の外で医療をすること

~ドクターヘリ、船医、山岳医の経験~

【実施日】令和4年11月29日(火)18:00~19:00

【講師】県立広島病院 救急科 部長

日下 あかり 先生

【参加者】51名

概要

日下先生は島根大学26期生である。島根大学医学部附属病院で2年間の研修を経て、麻酔科に入局された。現在は県立広島病院の救急科にご勤務である。

今回、自身の生い立ちから学生時代、麻酔科入局から救急医への挑戦等、興味深いお話を頂いた。先生は特に病院の外で医療することに興味を持たれ、ドクターヘリ、船医、山岳医や、消防と連携してメディカルラリーの開催、医療講習会のインストラクター取得等、その活動は多岐にわたり、お話は圧巻であった。また、本ウェブナーの参加者は医学生や病院関係者だけに留まらず、消防・海上保安庁等公安機関まで多方面の方に聴講頂いた。

参加者の「そのパワーの源は?」の質問に対して「素直な気持ちを忘れず、広い視野で自分にできることを増やしていく。そのためには健康が一番」と回答されたのが印象的であった。



半分見せませう!学生時代

【実施日】令和4年11月30日(水)12:15~12:45

【講師】島根大学医学部皮膚科学講座 教授

山崎 修 先生

【参加者】29名

概要

先生のお話は、「テーマを『全部』としていたが、時代も変わり今は通用しないこともある。保身のために『半分見せませう!』とした」と苦笑い交じりの正直な一言から始まった。

しかし、期待は裏切らず!学生時代は野球とウインドサーフィンの部活動に全力投球、身体は大学に向かわず波を求めて自然と久村海岸の方向へ向かわれたそうである。ウインドサーフィンに掛かる経費の為に、アルバイトは家庭教師から出雲大社の夜間警備等、これも全力投球である。加えて成績表の開示とハンコ貰いの行脚を「ピー音」も入れず激アツな内容をサラリとお話し頂いた。視聴者の多くは「本当に半分?」と頭の中を過ぎたはずである。

島根大学では皮膚がんと皮膚細菌感染症を取り入れ、短期目標に「皮膚がん診療の拠点を目指す」、中期目標には「地域の診療科体制の整備」を挙げられた。



島根県浜田保健所

所長
村下 伯 先生

3年にわたる新型コロナウイルス感染症への対応は、公衆衛生活動の原点を問い直されるものとなりました。

毎日、すべての患者の状況調査票と健康観察票に向き合う中で、生活状況が厳しい人から感染している現実、認知機能が低下した独居高齢感染者の自宅療養の対応、感染により不安が増幅している方への心のケア・・・、ひとりひとりをどう支えるかが問われました。

もちろん、保健所職員だけでは対応できません。病院・診療所の医師・看護師、訪問看護師には大変お世話になりました。そして誰に頼ったらいいかと、市町村職員、地域包括支援センター、相談支援事業所、福祉サービス事業所、民生児童委員などなど、様々な方々に相談し、お願いし、つないで、一緒に対応しました。何度も地域の皆さんに助けられました。

そして、公衆衛生の定義のとおり、すべての住民を対象に、「組織的努力」による健康増進をめざ

し、科学と技術で実践することの必要性を痛感したところです。

困りごとを受けとめ、助けを求め、知恵を絞って、一緒に取り組む。医療関係者の皆様には今後とも協力と連携をお願いしますとともに、公衆衛生の分野に興味を持っている方、是非来て下さい。お待ちしております。



島根県浜田保健所

〒697-0041 島根県浜田市片庭町254
TEL 0855-29-5537(代表)
FAX 0855-22-7009(総務保健部)

金城町「さざんか祭り」に参加して！！

医学科2年 藤澤 舞さん

11月5・6日、金城町で開催された「さざんか祭り」に医学科の仲間達と「島根大学医学生with波佐診療所」のブースを出展した。医師や看護師の指導を受け、血圧・血管年齢・体組成測定等を行った。準備や運営にあたっては、地域で活躍する医師・看護師・行政の方の働き方や、地域住民への関わりを間近で見せて頂き、医師の役割やコミュニケーションの取り方等多くのことを学んだ。

また、事前学習を含めて金城地域における健康問題やそれに対して行政・医療機関が行っている健康増進活動等についても学ぶことができた。さらに、地域の方とも直接対話をすることができ、住民の皆さん自身の健康問題に対する認識や普段の生活の様子、困っている

ことなどをヒアリングすることができた。生活のために車が必須で、歩く習慣があまりないこと等、地域特有の事情を直接聞くことができた。実習は受け身ではなく、自分達でテーマを設定し地域の人に向けて積極的に発信することで、より学習の定着化が図れることを実感した。今後の大学やサークルでの学習活動に取り入れていきたい。



今後の予定

Career Webinar

令和5年1月16日(月)12:15~12:45
講師:新野 大介 先生
島根大学医学部病理学講座 病態病理学 教授

令和5年2月27日(月)12:15~12:45分
講師:田島 義証 先生
島根大学医学部消化器・総合外科学講座 教授

地域医療Webinar

令和5年1月27日(金)18:00~19:00
講師:中畑 典子 先生
島根県立大学看護栄養学部 健康栄養学科講師

令和5年2月13日(月)18:00~19:00
講師:木谷 光博 先生
益田赤十字病院 院長

第5回しまね総合診療の集い

令和5年3月4日(土)予定

えんネット交流会

令和5年3月予定

地域医療体験実習I (春季地域医療実習)

令和5年3月13日(月)~17日(金)

CHECK



編集後記

明けましておめでとうございます。

レターのキーカラーは、今回温かみのある「鶉鼠色」です。トキの一文字が入っていますが、当地出雲市ではトキの分散飼育が行われ、出雲市生まれのトキが佐渡の空を舞っています。

医学科6年生は2月に第117回医師国家試験を受験し、3月に吉報を受け取り、4月にはそれぞれの希望した臨床研修病院で医師としてのスタートラインに立ちます。トキのように大きく羽を広げ飛び立られることを願っています。今年も島根大学医学部地域医療支援学講座を、どうぞ宜しくお願い申し上げます。(鶉鼠色:ときねずいろ)

島根大学医学部
地域医療支援学講座
ホームページはこちらから➡

